

産業イノベーションの創出促進のための重点施策に対する意見への対応等について

(1) 全般的なご意見

意見及びその理由	対応等
<p><b>【小澤部会長】</b></p> <p>・改めて A4 版に整理していただきますと、「課題解決型企業群形成支援」と「マーケティング強化支援」が非常に似た内容であるように読めてきました。元の委員会でご説明をいただきましたパワポを見返しますと、前者は「基盤技術力強化」と「IoT・AI の利活用」が基軸であり、フローも①～⑥の生産まで◎があり、⑦販売・販路拡大に◎印がありません。一方後者は、「有望市場等の調査・分析による戦略的な販路開拓・拡大」と「マーケティング力の強化施策の充実」が基軸であり、フローも①と⑦に◎があります。両者ともに①の社会的・経済的なニーズの把握・選定には◎があります。当然に、「課題解決型企業群形成支援」のためには、①は欠かせないとは思いますが、これが「マーケティング強化支援」と重なるため似た内容になるものと思われまます。</p> <p>従って、各プロジェクトではありますが、前者はものづくり振興課が実施する「作る事」②④⑤⑥、後者は企業立地・経営支援課が実施する「売る事・マーケティング」①③⑦のような役割分担をし、連携してプロジェクトにあたるような分担が適当ではと思います。</p> <p>そうすることで、「作る事の支援」と「売る事の支援」で縦軸の支援も可能になると思います。</p> <p>しかし、これですと従来の支援策と何ら変わらないと指摘されるきらいもありますが、この二つのプロジェクトが連携し、1. の「産業イノベーション創出促進研究開発支援」を出口にタテの深掘りテーマに連なるような構造が好ましいように思います。</p>	<p>・以下のことから、各重点施策の製品開発の工程との関係性は変更しておりません。</p> <p>これまでの検討部会において、「産業イノベーションを創出するためには、出口（＝経済的・社会的ニーズ）を重視する必要がある。」とのご意見を多数いただいております、その点を踏まえ、重点施策を検討してきております。従いまして、複数の重点施策において、製品開発の工程中の「経済的・社会的ニーズの把握・選定」との関係性を持たせております。</p> <p>一方で、各重点施策で得たいと考えているニーズは異なっており、例えば「課題解決型企業群形成支援」で得たいのは、川下企業の技術開発ニーズですし、「マーケティング力強化支援」で得たいのは、国内外市場の製品ニーズとなります。</p> <p>ただ、ニーズ把握の取組の中では、得たいニーズ情報以外のものも入手できる可能性もあります（＝国内外市場の製品ニーズを得る取組の中で、技術開発ニーズが得られる等）ので、各重点施策間の情報共有を図ってまいります。また、複数の重点施策でニーズを把握することにより、より多くのニーズを把握できるメリットがありますが、情報共有が図られなければ意味がありませんので、この面からも各重点施策については連携を密にしていまいります。</p> <p>各重点施策の関係性ですが、『課題解決型企業群形成支援』によって、先端技術の導入と基盤技術が強化され、提案力が向上した企業が、『産業イノベーション創出研究開発支援』によって、大規模な研究開発プロジェクトに取り組み、産業イノベーションの創出につながり得る『芽』を創出する。そして、その『芽』を新たな核として、産業イノベーション創出型重点プロジェクト（縦の施策展開）につなげていく。」という流れはあると考えております。</p> <p>また、「マーケティング力強化支援」については、売るという側面から、「課題解決型企業群形成支援」、「産業イノベーション創出研究開発支援」の両方を支える重点施策という位置づけであると考えております。</p>

意見及びその理由	対応等
<p><b>【杉原専門委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サプライチェーンの全体（原材料から最終消費者まで）を把握して、特に最終消費者（最終製品・商品）のニーズを上流各所にフィードバックすることが、今後の産業イノベーション創出において非常に重要ですが、重点施策（横串）は、サプライチェーンの局所局所しか見えていない取り組みが散見されます。例えば課題解決型企業群形成支援には、「川下産業の課題解決」の表現がありますが、サプライチェーンの目先ばかり見ていると、最終消費者の課題やニーズは把握できず、産業イノベーションの創出促進も難しいと思います。マーケティング力強化支援（販路開拓支援）も、目先の販路だけではなく、最終消費者の志向等を掴む必要があり、さらにそれをできるだけ上流産業までフィードバックする仕組みが必要だと感じます。人材育成・確保についても、従来方策（局所論が多い）の延長での人材育成・確保に加え、例えば上述の広範な思考・実践を成せる“イノベーション人材”の育成・確保が必要です。</li> <li>各地域振興局の取り組み（縦串）が、最終消費者（最終製品・商品）までを意識した提案であるのに対し、重点施策（横串）が、旧来の限定的な施策の延長であるため、横串が短く本数不足と感じます。</li> </ul>	<p>注) ご意見に対する対応等は「(2) 個別の重点施策に対するご意見」中の関係する重点施策（「課題解決型企業群形成支援」、「マーケティング力強化支援」、「産業人材育成支援」、「人材確保支援」）の欄に記載しています。</p>
<p><b>【森専門委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8つの横串の関係性が一目で理解できる「図」はできないでしょうか。この重点施策は県が定めるものであり、各地域プロジェクトはそれに従って地域が提案する位置づけになっているのではないかと思います。そうすると「県は何を目指そうとするのか」、そのために何を県としてする必要があるのかが8つの横串ということになるのではないのでしょうか。そうすると8つの横串をおいた目的、また相互関連性はどうか、等々が簡単に理解できる図を作成・挿入していただくと内容の理解に役立つものと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8つの重点施策は、産業イノベーションの創出に向けた活動に取り組む企業の増加に向けて、「産業イノベーションの創出につなげるための一般的な製品開発の工程」を、企業がステップアップしていくことを効果的に支援するものです。</li> </ul> <p>本文 68 頁に、8つの重点施策と製品開発の工程との関係性を整理した表を掲載しております。</p>

(2) 個別の重点施策に対するご意見

番号	重点施策名	意見及びその理由	対応等
1	産業イノベーション創出研究開発支援	<p><b>【小澤部会長】</b>                      ・上記のとおり、長野県テクノ財団「産業イノベーション創出総合支援センター」が中心に、外部の目利き集団の知見で有望プロジェクトを成功に導くという目的が明確で、タテに繋がる横軸の中の出口プロジェクトのように思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見として承りました。</li> </ul>
		<p><b>【県テクノ財団】</b>                      ・「(1) 重点施策の概要」の5行目「研究開発の進捗支援」→「プロジェクトの運営支援」に変更いただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり修正します。</li> </ul>
		<p><b>【県テクノ財団】</b>                      ・&lt;重点施策の全体像&gt;の図中のテクノ財団「産業イノベーション創出総合支援センター」(仮称)について特に言及されていませんが、前プランの「イノベーション推進本部」の名称変更という認識でよろしいでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見いただいたとおりと認識しております(重点施策の様式へは反映しません)。</li> </ul>
		<p><b>【県テクノ財団】</b>                      ・(4)の【主な取組Ⅱ】について                      【主な取組Ⅰ】の〈研究開発で重視する事〉での断トツ1番は、「市場ニーズ把握」である。このことや、産業イノベーション創出活動の活性化には、市場ニーズ把握等の初期段階への支援が極めて重要という視点から、「課題解決の方向性と主な施策の展開」を以下の様に修正願いたい。                      ①海外も含めた広域的な課題解決ニーズの探索支援機能を強化し、その解決方策のビジネス化のための新製品・新サービスの産学官連携研究開発プロジェクトを数多く組成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり修正します。</li> </ul>
2	課題解決型企業群形成支援	<p><b>【小澤部会長】</b>                      ・(1)の重点施策の概要の6行目「新たな受注等に関する取組は、各企業の取組に委ねてきた」とありますが、この表現ですと今後、全て県が担うようで重いため、「新たな受注等に関する支援は十分とは言えなかった」ぐらいのニュアンスが相応しいかと思えます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり修正します。</li> </ul>
		<p><b>【小澤部会長】</b>                      ・(3)5年後のKPIですが、「課題解決で創出した受注、コスト低減額」とありますが、受注額とコスト低減額を足していいものか不明です。また、コスト低減額が図れるかも不明です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト低減額は「生産現場IoT化支援事業」において計測可能と考えています。ご指摘を踏まえ、「課題解決で創出した受注、コスト低減等による付加価値額」へ変更します。</li> </ul>

番号	重点施策名	意見及びその理由	対応等
		<p><b>【小澤部会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前も意見をさせていただきましたが、「課題解決型企业というものがイメージしにくいので、もう少し分かりやすい名称の方がよいのでは」という点と「現状を踏まえるとIoT・AIに関する取組をもっと特だし（別の重点施策にする）した方がよいのでは」という部分は、なかなか難しいでしょうか。</li> </ul> <p><b>【杉原専門委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「川下産業の課題解決」の表現がありますが、サプライチェーンのすぐ下流（目先）ばかり見ているのは、最終消費者の課題・ニーズは把握できず、産業イノベーションの創出促進も難しいと思います。</li> </ul> <p><b>【森専門委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現状と課題」においてIoTが重要な取り組みの方向性の1つに挙げられています。小生の考えですが、「IoTはネットの先にどんな付加価値の高いサービス（見える化、メンテ、制御などが現状の一般的な方向）を作り出すか、がまず第一義的に大切で、そのために次にどんな情報をマシンから検出するか」を考えることだと理解しています。つまり「ものづくり」というよりは「コトづくり」の性格が強いのと思っています。しかし、どうしても一般的には「モノにどうセンサをつけるか」という「ものづくり」的方向性が強調されて伝わっています。まだまだ正しい方向性（白書も「コトづくり」的な視点で記述してあるものは少ないように思います）が理解されていないIoTを、よりこれからの「コトづくり」の重要性を気付かせる方向性が盛り込まれるような記述を入れていただくと、国の白書よりも一歩先んじることができるのではないのでしょうか。つまり、「地域創生→地域に価値をもたらす→新たなサービスを生み出す仕組み→その一つの技術的仕組みとしてIoT」といった考え方です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IoT、AIが注目を集めている一方、県内企業に目を向けますと、どの様に活用したらよいのかわからないのが現状と考えています。そのため、本重点施策でのIoTの利活用は、メリットが見えやすい、生産性の向上や余力を生み出すための取組としたいと考えています。 課題解決型企业がイメージしづらいというご指摘については、下記の杉原委員の意見への対応等で記載したとおり修正します。</li> <li>・あくまで最終顧客と直接つながる最終製品メーカー等が川下産業であると想定しており、課題解決型企业群形成支援事業においては、最終製品メーカーにおける課題と自社技術との間の技術ギャップを見える化する取組を支援したいと考えています。よって、「(1)重点施策の概要」2行目の「川下に位置する大手企業等が持つ・・・」を「川下に位置する最終製品を供給する大手企業等が持つ・・・」に変更します。</li> <li>・ご指摘のとおり、IoTを利活用する価値は、単なる生産性向上だけではなく、IoT化により得られるビッグデータを活用した新たなサービスの創出が含まれ、むしろ後者での活用が大変重要と考えています。一方で、県内企業に目を向けた際、そもそもIoTを利活用することによるメリットが分からないのが現状です。そのため、ここでは、まずメリットの見えやすい生産現場での活用を推進したいと考えています。 なお、IoT化により得られるビッグデータを活用した新たなサービスの創出については、それに取り組むにふさわしい中核技術が発掘された際に「産業イノベーション創出支援事業」（目利き集団による支援）において支援を実施したいと考えています。</li> </ul>

番号	重点施策名	意見及びその理由	対応等
3	地域資源活用支援	— ※事前の意見照会はしておりません。	
4	マーケティング力強化支援	<b>【杉原専門委員】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティング支援では、目先の販路だけではなく、最終消費者の志向等を掴む必要があり、さらにそれをできるだけ上流産業までフィードバックする仕組みが必要だと感じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見のとおり修正します。</li> </ul>
		<b>【県テクノ財団】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>航空機産業振興ビジョンを踏まえた取組を充実するとしているが、航空機産業（航空機システム）という特殊な市場分野で、新たにどのようなマーケティング力を強化していくのか、全く提示されていない。 県として特に力を入れている航空機産業（航空機システム）クラスター形成において、マーケティング支援センターはどのような役割を果たしていくのか、明確に提示すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見のとおり修正します。</li> </ul>
		<b>【県テクノ財団】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品製造業振興ビジョンを踏まえた取組を充実するとしているが、本県食品産業にとっての、対応すべき市場ニーズのグローバルな規模での的確な把握を、どのように実施していくのか。 テクノ財団やジェットロ等の関係機関の連携によることは当然として、もう少し踏み込んで、その方向性（手法の骨格等）だけでも提示しないと重点施策とはなり得ないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見のとおり修正します。</li> </ul>
5	産業人材育成支援	<b>【小澤部会長】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヨコの支援に係る人材を育成ということは良く分かりますが、タテのテーマ実現に向けた人材育成の視点も（できればですが）更に良いように思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業人材育成支援コンソーシアム（仮称）のなかで、タテのテーマ実現に向けて必要とされる人材育成プログラムについて検討してまいります。</li> </ul>
		<b>【杉原専門委員】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>従来方策（局所論が多い）の延長での人材育成に加え、広範な思考やそれに基づく実践を成せるイノベーション人材の育成が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業人材育成支援コンソーシアム（仮称）のなかで、広範な思考やそれに基づく実践を成せるイノベーション人材育成に必要なプログラムを検討してまいります。</li> </ul>

番号	重点施策名	意見及びその理由	対応等
		<p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(1) 重点施策の概要で、全てのビジネス展開プロセスにおいて、「人材」が重要としながら、ビジネス展開プロセスに対応させた（当該プロセスを各フェーズとした）人材育成プログラムが提示されていない。 義務教育から社会人教育に至る教育対象の区分毎の抽象的なプログラムの提示に留まっている。 例えば、産業イノベーションの工程の中で、特に企業が重要としている工程に係る人材の育成プログラムを新規事業とするような工夫もお願いしたい。</li> </ul> <p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プランでは、長野経済研究所と県の調査に基づき、企業は研究開発力不足を第1の課題とし、その研究開発において最も強化したい事項として「市場（社会的・経済的）ニーズの把握」を断トツ1番に挙げていることを説明している。要するに、県内企業は、市場ニーズを把握し、その解決方策を高付加価値な製品・ソフトとして開発・事業化できる人材を最も求めているのである。 そのような産業界が最も求めている人材の育成に取り組むことの必要性等については全く記載されていない。 産業イノベーション創出促進に資する人材育成というポイントに、もっとフォーカスした新たな施策体系・構成に修正すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画本文中に記載のとおり、「産業界のニーズに応じた、新たな時代に必要とされる人材育成事業を実施または支援していく」としており、具体的には、産業人材育成支援コンソーシアム（仮称）のなかで、研究してまいります。</li> <li>・計画本文中に記載のとおり、「産業界のニーズに応じた、新たな時代に必要とされる人材育成事業を実施または支援していく」としており、具体的には、産業人材育成支援コンソーシアム（仮称）のなかで、研究してまいります。</li> </ul>
6	産業人材確保支援	<p><b>【小澤部会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記同様にここでも特にタテのどのテーマにどのような人材・プロ人材が必要か等あれば、タテとの繋がりも出てくるように思います。</li> </ul> <p><b>【杉原専門委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来方策（局所論が多い）の延長での人材確保に加え、広範な思考やそれに基づく実践を成せるイノベーション人材の確保が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの産業分野や企業にとって必要とされる人材は様々であるため、必要に応じた人材が確保できるような施策としていきます。こうした趣旨が伝わるよう、本文を修正しました。</li> <li>・広範な思考やそれに基づく実践を成せる人材も含め、それぞれの産業や企業が必要に応じた人材を確保できるような施策としていきます。こうした趣旨が伝わるよう、本文を修正しました。</li> </ul>

番号	重点施策名	意見及びその理由	対応等
		<p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点施策の目指す姿からは、産業イノベーションの創出に資する人材の確保への支援施策を提示すべきことになるが、産業イノベーション創出に資する人材とはどのような人材なのかの提示もなく、単に、一般的な人材確保施策を提示しているのみ。</li> <li>産業イノベーション創出に資する人材の確保に特化した施策を重点的に企画・実施化するという視点から、新規重点施策を構成・提示していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの産業や企業の必要に応じたイノベーション創出に資する人材が確保できるような施策としています。こうした趣旨が伝わるよう、本文を修正しました。</li> </ul>
7	創業支援	<p><b>【小澤部会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)の重点施策の概要の3行目「全国平均には届かない」という記述に「全国平均●●%には届かない」と具体的数値を入れていただくと分かり易くなるように思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見のとおり修正します。</li> </ul>
		<p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「(1)重点施策の概要」の1行目の「指標は、」→「指標である」に変更（1文の中に主語が2つあるため）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見のとおり修正します。</li> </ul>
		<p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「(1)重点施策の概要」の7行目で、「イノベティブな創業・起業を活発化する」手段として「ワンストップ相談窓口の機能強化」が挙げられているが、そもそもイノベティブな創業者がほとんどいない中で相談窓口を強化しても、目的を達成することは難しいのではないのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県主催の創業セミナーの参加者アンケートでは、必要な支援として「何でも相談できる窓口」が上位となっており、ワンストップ創業相談機能を強化・充実することは、イノベティブな創業を促進することにも繋がると考えます。</li> </ul>
		<p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イノベティブな創業・起業を活発化するためには、創業・起業を志す人が、企業ニーズだけでなく、より広く経済社会の様々な課題解決ニーズを把握できる場を提供することなどが必要となる。</li> <li>県の調査でも、研究開発で重視する事の断トツ1番は、「市場ニーズの把握」となっている。</li> <li>経済社会が抱える課題を解決し、産業や人々の生活を大きく改善することに資する製品・サービスを提供することが、イノベティブな創業・起業になるという視点から施策を構築していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見として承り、施策構築の参考とさせていただきます。</li> </ul>

番号	重点施策名	意見及びその理由	対応等
		<p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションハブの運営主体が不明確である。具体的にだれが、どのようにイノベーションハブを創設・運営していくのか、その方向性だけでも提示すべき。</li> </ul> <p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本一創業しやすい県づくり」とアピールしているが、何をもって「日本一創業しやすい」としているのかが不明確である。創業環境としての、他県等に対する明確な優位性・独創性・新規性等を具体的に提示すべきである。</li> <li>・単なるキャッチフレーズでは、論理的に構成されてきている、本計画の「質」を低めることになってしまうため。</li> </ul> <p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〈重点施策の全体像〉における、ワンストップ支援機能を有するイノベーションハブと、総合相談窓口「ながの創業サポートオフィス」との関係が不明確。関連性や役割分担が分かるように記載すべきではないのか。</li> </ul> <p><b>【県テクノ財団】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、「イノベーションハブの機能」において、サテライトオフィス（貸しスペース？）を設置するとなっているが、そのようなスペースを確保できるイノベーションハブをどこに設置する予定なのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションハブ（仮称）については、開設場所、機能、運営等について、検討に時間を要するため現段階で記載可能な事項のみ記載しております。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本一創業しやすい県づくり」については、信州創生戦略より県創業支援策の目指す姿として掲げていることから、引き続き本計画においてもプロジェクトのサブタイトルとし、目指す姿としております。</li> <li>・なお、他県等に比較し優位性がある施策については、その内容を全体像の図に表記することを検討します。</li> <li>・創業支援資金融資制度（日本一自己負担が少ない）</li> <li>・創業等応援減税（法人事業税の全業種免除は本県のみ）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションハブ（仮称）が開設するまでの創業相談窓口は「ながの創業サポートオフィス」が担い、開設後はハブにおいてワンストップ創業相談を実施したいと考えていますが、検討中であり記載することが困難です。全体像の図については、解り易くなるよう工夫し修正します。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトオフィスについては、県土の広い本県において、県内各地の創業希望者や事業者、支援機関等が身近な場所でイノベーションハブ（仮称）の機能を活用できるようサテライト機能を持つ場所を各地に設置することを想定していますが、設置場所等詳細は今後検討してまいります。</li> </ul>
8	産業集積及び投資促進	<p><b>【小澤部会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦軸である「航空機システム」「食品製造業」次世代産業クラスター形成の取組にあわせた信州ものづくり産業投資応援条例等に基づく助成制度・融資等の充実強化。と縦軸を担う視点が戦略的に良いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見として承りました。</li> </ul>